



エ ル シ ン LSIN ニュースレター

No. 21

特定非営利活動法人 環瀬戸内自然免疫ネットワーク

— 自然免疫と健康維持 —

LSINは、特定非営利活動法人 環瀬戸内自然免疫ネットワーク(Nonprofit Organization Linking Setouchi Innate immune Network)の略であり、平成13年に設立された自然免疫賦活技術研究会を母体として、平成18年3月22日に設立されたNPO法人です。詳しくは <http://www.lsin.org> をご覧ください!!

— 第42回自然免疫賦活技術研究会開催される —

平成24年9月14日(金)、香川産業頭脳化センター(香川県高松市)にて第42回自然免疫賦活技術研究会が開催されました。

今回の研究会では、四国経済産業局より「健康食品・化粧品ビジネスマッチングin札幌2012」、かがわ産業支援財団より「香川の地域資源を活用した機能性食品開発シンポジウム(第1回)」についてご紹介頂きました。また、北海道科学技術総合振興センターより「北大リサーチ&ビジネスパーク」と「平成24年度地域イノベーション戦略推進事業」の概要をご説明頂きました。四国産業・技術振興センターからは、科学的エビデンスに基づく地域ブランド認証システム構築モデル事業としてLSINの効果実証試験に関する事業実施概要等をご紹介頂きました。

特別講演では、日本たばこ産業(JT)株式会社 本社 法務部次長/知的財産センター センター長 菊池 徹 氏より「JTの多角化戦略と知的財産マネジメント」と題して、JTの多角化戦略についてご紹介頂きました。さらに、企業価値を高めていく為の知財マネジメントのポイントとして、事業単位での戦略に沿った知財戦略の策定を行うことの重要性を改めて理解する良い機会となりました。



本号のニュース

- ・第42回自然免疫賦活技術研究会の開催
- ・第9回倫理委員会開催される
- ・第1回自然免疫制御セミナー開催
- ・第2回シンポジウム開催決定
- ・自然免疫賦活技術研究会 会員企業紹介
- ・健康支援食品に関する取り組み

— 目次 —

- ・第42回自然免疫賦活技術研究会開催される 1
- ・第9回倫理委員会開催される 1
- ・第1回自然免疫制御セミナー開催される 2
- ・第2回シンポジウム『自然治癒力と自然免疫』開催決定 2
- ・自然免疫賦活技術研究会 会員企業紹介
第18回 株式会社 中温 3
- ・平成24年における健康支援食品に関する取り組み 3
- ・ひげ博士のホットレポート-最新免疫学講座- 4
- ・LSIN会員募集 4
- ・編集後記 4

第9回倫理委員会開催される

平成24年11月30日、高松シンボルタワーオフィスサポートセンター会議室B-7、8(香川県高松市)で第9回NPO法人環瀬戸内自然免疫ネットワーク(LSIN)倫理委員会が開催されました。LSIN臨床部会より審議事項が2題申請され、審議が行われました。

まずLSIN臨床部会長である吉村委員から、本審議案件の概要説明が行われました。その後委員から試験対象者の設定基準、試験期間、検査項目、調査内容についてそれぞれ質問があり、それに対してLSIN臨床部会部会員とオブザーバー参加の依頼企業より回答が行われました。

活発な審議の後オブザーバーは退席し、委員による議決が行われ「修正ののち承認」となりました。審議内容に沿って計画書等を修正し修正書類を各委員に送付する事、その資料をもとに意見を集約し、書類審議で再議決を行う事になりました。

倫理委員会の審議結果の答申を受けLSIN臨床部会で協議した結果、再度LSIN臨床部会から倫理委員会の見解を踏まえた試験計画の再提出を行いました。その後の書類審議で10人の倫理委員会委員の内8人より同意が得られたため、LSIN倫理委員会規約第3条8項により承認となりました。

第1回 自然免疫制御セミナー開催される

～植物発酵糖脂質の応用－自然免疫による自然治癒力アップ～

2012年9月19日に、自然免疫とその中心的な役割をもつマクロファージ細胞について学ぶ、第1回自然免疫制御セミナーが開催されました(主催:自然免疫制御技術研究組合・香川大学医学部統合免疫システム学寄附講座/後援:自然免疫賦活技術研究会(当NPO法人))。

当NPO法人理事でもある柚 教授(香川大学医学部)をはじめ、稲川 准教授(同大学医学部)、高松氏(有限会社タカ企画)、河内 准教授(香川大学医学部)及び中田 助教(岡山県立大学保健福祉学部栄養学科)に講演をいただきました。



まず、健康維持としての自然免疫の役割やマクロファージ制御と糖脂質の利用による自然治癒の増強作用について、柚 教授、稲川准教授から講演がありました。

柚 教授は、『自然免疫・マクロファージ・糖脂質』と題して、「自然免疫」の考え方の歴史、マクロファージの機能と学術的な位置、糖脂質について新しい健康に必須な成分であることや学術的にも「糖脂質(LPS)＝エンドトキシン(内毒素)」との位置付けがもはや古いという、欧米の研究者における認識が変わってきたことについて講演されました。



稲川 准教授は、『健康と自然免疫』と題して、健康や癌にマクロファージが深く関わっていること、マクロファージ制御による癌治療法の最新研究について、さらに糖脂質発見の研究背景や癌治療に関する研究動向について講演されました。



高松氏は『環境中LPSと衛生仮説』と題して、サプリメントの有効性と安全性、衛生仮説と免疫システムについて講演されました。

河内 准教授は『糖脂質の化粧品への応用』と題して、皮膚と糖脂質との関係についての実験結果、化粧品への糖脂質の応用例について講演されました。

中田 助教は、『糖脂質応用製品についての効果実証』と題して、これまで当NPO法人で実施してきた糖脂質配合商品の臨床試験6例(食品5例、化粧品1例)を紹介し、糖脂質の自然治癒力アップについて講演されました。

当日は企業の方以外にも一般の方も含め70名近くご参加いただき、特に関心の高い参加者は講演終了後も講師をつかまえて質問を投げかけていました。次回以降も続いて開催を望む声が多く聞かれておりますので、関係者の皆様には、次回もご協力をお願いいたします。また、ご支援いただきました皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。

第2回 シンポジウム『自然治癒力と自然免疫』開催決定

2011年11月4日に第1回シンポジウム『自然免疫、その新展開』が自然免疫制御技術組合の主催で開催され、審良静男教授(大阪大学免疫学フロンティア研究センター)、光岡知足名誉教授(東京大学)お迎えし、柚 源一郎 教授(徳島文理大学、香川大学教授、当NPO法人理事)も加わり講演を行いました。また、奥村康 教授(順天堂大学)を座長に迎えパネルディスカッションを行ない、自然免疫における最新の研究動向をわかりやすく紹介しました。

そしてこの度、『自然治癒力と自然免疫』をテーマに、2013年3月27日(水)に第2回シンポジウムが笹川記念会館(東京都港区)で開催することが決定しました。12時より受付を、13時よりシンポジウムを開始する予定です。

座長に寺田 弘 教授(東京理科大学)、講演者に自然死について数多くの著書を出されている中村仁一 先生(同和園付属診療所)と感染遺伝学の第一人者である三宅健介 教授(東京大学医科学研究所感染遺伝学分野長)をお迎えし、当NPO法人の稲川裕之 准教授(香川大学)も加わって、自然治癒力に焦点をあてて紹介します。

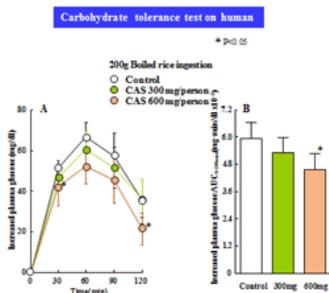
自然免疫に関心のある研究者(学生さんも含む)はもちろんのこと、予防医学や健康産業に携わっておられる各界の皆様、そして免疫に興味をお持ちの皆様、ぜひご出席いただきますようご案内いたします。

株式会社 中温



株式会社中温は、愛媛県の特産品である栗と筍の加工と販売を中心とした各種農産加工を行っております。みなさんが食べている栗の和菓子や洋菓子、栗や筍ごはんなどの材料やPB商品のため、そのほとんどが弊社の会社名の出ないものです。

また、これら加工工程から出る未利用資源の活用について研究しております。その一つに、マロンポリフェノールがあります。マロンポリフェノールは、栗の加工工程で発生する栗渋皮より抽出したもので、強いアミラーゼ阻害活性を持つ物質です。消化酵素の一つであるアミラーゼを強く阻害するため、食後血糖値の急激な上昇を抑え、インシュリンの節約効果により糖尿病や成人病の予防に役立ちます。また、アミラーゼ阻害物質としては珍しい耐熱性を持つため、ごはんに炊き込んだり、パンやクッキーに練りこんだりしても使用できます。



果により糖尿病や成人病の予防に役立ちます。また、アミラーゼ阻害物質としては珍しい耐熱性を持つため、ごはんに炊き込んだり、パンやクッキーに練りこんだりしても使用できます。

すでに、健康食品分野では、『ナッフルGI』(エムジーファーマ)や『BURNER』(船井醫薬:台湾)などで、サプリメントとしてタブレット化され、販売されております。これらの開発研究の過程において、モニターや開発に携わった女性から、「化粧ののりがよくなった」とか、「生理前の吹き出物が出なくなった」、「目の周りのクマがとれた」などの報告があり、今後は、化粧品などにも使用できるのではないかと考えております。



製品写真

弊社は、このマロンポリフェノールだけでなく、その他の未利用資源からも有用物質を検索しており、今後、自然免疫を活性化するような物質を見つけることができるのではないかと楽しみにしております。マロンポリフェノールについても、これらの効果については、早急に検討してゆきたいと考えております。

未来食品創造企業として、今後は、さらに研究開発を行います。
<URL> <http://www.chuon.co.jp>

平成24年度における健康支援食品に関する取り組み

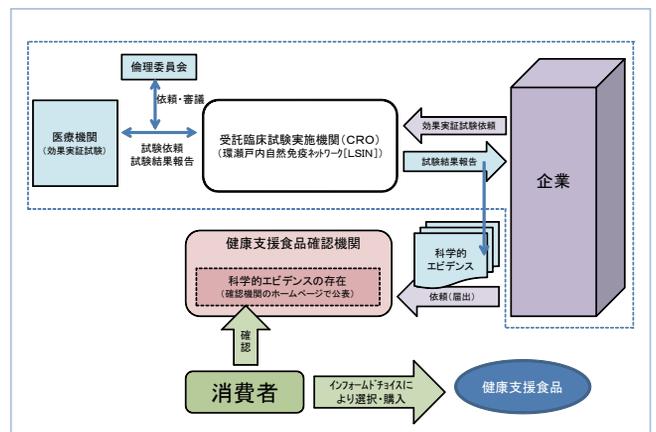
～LSINの効果実証試験システムを活用した地域ブランド認証システム事業の進捗状況～

LSINが四国産業・技術振興センター(STEP)と連携し、日本立地センターから受託して実施しております「科学的エビデンスに基づく地域ブランド認証システム構築モデル事業」については、検討委員会(委員長: 柚 源一郎 氏)での議論などをベースとして、機能性表示システムの具体化を図るとともに、北海道内の食品素材を対象とした効果実証試験を実施しているところです。

● 機能性表示システムの具体化
・平成23年度成果「科学的エビデンスに基づく食品の機能性表示システム」をベースとし、独自の食品機能性表示制度を目指している北海道バイオ工業会と連携して、機能性表示システムの具体化に取り組みました。

● 効果実証試験の実施
・北海道バイオ工業会が選定された食品素材に関する科学的エビデンスの収集のため、倫理委員会の審査を経て、効果実証試験を実施しております。

このモデル事業は、他地域と連携した優れた取り組みを促進しつつ、地域ブランド認証システムの構築と地域企業の製品・高付加価値化を促進するモデルを実証することを目指しており、上記に加え、本年度内に以下の項目に取り組む予定です。

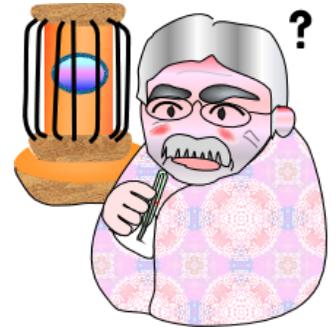


LSINの現行効果実証試験システム

- ・科学的エビデンスについて地域ブランド認証事業における活用方法ならびに消費者への情報提供のあり方などの検討
- ・効果実証試験結果を活用した商品化の具体的内容(デザイン、表示方法、表示内容等)の提案
- ・他地域に導入するためのマニュアルの作成 など

皆さん。ひげ博士じゃ。

ヘックシュ！失礼。風邪をひいたら熱や、鼻水、咳が出る。みんな体を守る仕組みじゃ。そうそう、無理に熱を下げない方が、治りが早いと言われるのは知っておるかのう。実際、マウスにばい菌を感染させて、暖かいところで飼っておいた方がばい菌を早く排除できるのじゃよ。発熱でマクロファージの異物貪食する能力が高まる新たな仕組みが発見されたことが最近の論文*で発表されたので、皆さんに紹介するとしよう。



適度な発熱(体温より1~2度くらい高め)だと自然免疫を活性化することが知られておるが、マクロファージの異物貪食能も高まるのじゃ。この効果には体温センサーといえるTRPM2(トリップ・エムツー)というタンパク質が熱により活性化型になり、マクロファージに働いて、貪食機能が亢進するのじゃ。それだけでなく、ばい菌が体内に侵入すると、まず最初にマクロファージに貪食されるが、その時にばい菌を殺す活性酸素が生じるが、この活性酸素がTRPM2の活性化を誘導することがわかったのじゃ。傷口が赤くなって熱を持っている所はマクロファージが一生懸命ばい菌を貪食して排除しているということじゃな。勿論、過度の発熱は体のためにも適切に下げることが肝腎じゃよ。

*: ProNAS, 2012, 109: 6745-6750

LSIN会員募集

LSINでは会員を募集しています。LSINの活動に賛同していただける方であれば、どなたでも入会できます。

●入会金・年会費一覧

入会を希望される方は、以下の入会手続きをご参考ください。

(1)ホームページからの入会手続き

下記のURLにアクセスし、ホームページ内の「入会のご案内」→「入会申込フォーム」に必要事項を明記の上、お申込ください。

LSIN URL : <http://www.lsin.org>

(2)郵送またはFAXによる入会手続き

「入会申込書」をLSIN事務局まで郵送あるいはFAXでご請求下さい。

「入会申込書」に必要事項を明記の上、事務局まで郵送あるいはFAXにて送付ください。

「入会申込書」の下部に記載している振込先へ、入会金・年会費をお振込ください。

事務局から「入会手続き完了」の連絡をお送りします。

※「入会手続き完了」のご連絡は、事務局にて入会申込書と入金を照合し、入会手続きが完了した時点でお送りします。

入会申込書の送付と入会金・年会費のお振込完了後、2週間を過ぎても連絡がない場合は、お手数ですが事務局までお問い合わせください。

入会金			年会費		
正会員	個人会員	10,000円	正会員	個人会員	10,000円
	企業会員	30,000円		企業会員	50,000円
賛助会員	個人会員	10,000円	賛助会員	個人会員	10,000円
	企業会員	30,000円		企業会員	50,000円
モニター会員	入会金なし		モニター会員	年会費なし	

〒761-0301 香川県高松市林町2217-16
FROM香川バイオ研究室

特定非営利活動法人 環瀬戸内自然免疫ネットワーク

TEL:087-813-9201 FAX:087-813-9203

(MOBILE:090-2783-5885)

E-mail: npolsinlsin@lsin.org URL: <http://www.lsin.org>

編集後記

LSIN会員の皆様、ニュースレターNo.21をお届けします。

本号では、第1回自然免疫制御セミナーについてお伝えしました。まだ一般に知られたとは言えない「自然免疫」とマクロファージ細胞について当NPO法人の理事長をはじめ4名の会員に講演をいただきました。当日は、企業参加者以外に自然免疫に関心のある一般の方に多数ご参加いただき、盛況の内に終了いたしました。今後も引き続きセミナーを開催する予定ですので、ご関心のあるLSIN会員の皆様もぜひご参加下さい。

辰年の2012年もまもなく終わりますが、LSIN会員の皆様にとって今年は何の様な年だったでしょうか。LSINでは、設立当初から「健康維持は自然免疫の活性化から」をコンセプトに、【1】自然免疫の役割や重要性についての情報発信、【2】自然免疫を活性化する技術の普及を目的に活動を行ってきました。来年も今年以上に活動を行いますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりますが、お忙しい中、原稿をご執筆いただいた方々、編集委員の皆様にご心より厚くお礼申し上げます。

編集長 中本 尊

LSINニュースレター編集委員

LSIN事務局

編集長 中本 尊 編集員 稲川裕之 中本優子 谷口芳枝

平成24年12月21日発行